

ちっちゃいものくらぶ

深海魚パート1

この前静岡県沼津市にある、沼津港深海魚水族館 シーラカンス・ミュージアムに行った。一応「行った」んだけど、初日の朝はすでに行列が90分待ちだったので、あきらめて別のところに行った。閉館前にもう一度行った。でもやっぱり行列…。その日はあきらめ、翌日朝開館前に行った。でもすでに40分待ち。深海魚は今回はおあずけになったわけさ！

サケビクニン（くん）



本当は自分で撮った写真を、この「ちっちゃいものくらぶ」に載せたいと思っていた。いわば一種の取材の意味もあったんだ。まあ、行って見て意外に沼津は近かったんで、そう遠くない将来に再度チャレンジしたいと思ってる。

沼津で私が会いたかった魚を今回は紹介するね。

1 サケビクニン(くん)

〈まずはネットでの声から〉

「サケビクニンぎゃんかわ」「サケビクニンって魚が超かわいい。手から餌ばくってしてる姿にもう癒されまくり…」など、すぐにも会いに行きたくなっちゃう反応がたっくさん！

彼はコンニャクウオ属の魚で、水深 100～600mの深海に棲んでます。ビクニンの名前は比丘尼（びくに：出家した女性）の頭の形に似ていることが由来だそうです。普通食用にはされないけど、食べてみた人の話では、ゼリー状の身体がすっかり溶けてしまい、味はよくわからなかったとのこと。

2 ダイオウグノクムシ(さん)…にゃんことのツーショット

「深海の掃除屋」との異名も持つ彼らは、深海底に沈んできた死骸などを食べてるそうです。とっても少食で、鳥羽水族館で飼育されていたお仲間は、2009年1月2日に50gのアジを食べ



て以来、2014年2月14日に亡くなるまでの5年1か月間（1869日間）ご飯をいただかなかったそうです。また2013年2月に飼育を始めて、4か月絶食した後、その年の6月に亡くなった子は、消化管に未消化の魚が106gも残ってたらしいです。

深海はとっても餌が少なそうだよ。そんな中で生き抜くためには、超省エネで生きていける身体の仕組みがあるのかもしれないね。